



板状未塗装キット・旧型国電シリーズ

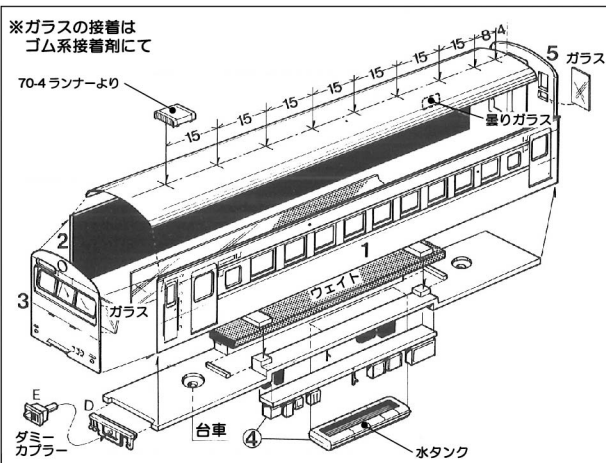
別売アイテム

- 台車 クハ85100…No.5005:TR48
- スノーブロー No.8112
- 排障器 No.8114
- 車両マーク No.6302

カラーガイド

- ボディ ③+⑬
- サッシ ⑧
- Hゴム ⑨または⑭
- 屋根 ⑫
- 屋上機器 ⑤
- 床下 ⑩

※ボディの塗色は「塗装ガイド」項もご参照ください。



ボディの組み立て

前後妻板、左右側板、屋根板をすき間の出来ない様注意して組み立て、全体を塗装後に裏から窓ガラスを接着します。

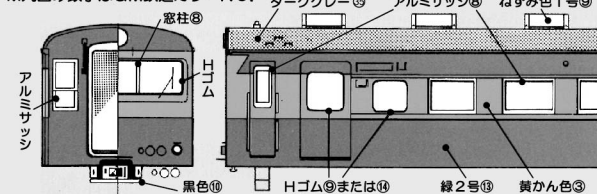
床板は上面に鉄板のウェイトを2本のウェイト止め(何も刻印のない平板)で固定し、下面には床下器具ユニットを左右にふり分けて接着し、さらに中央よりやや後ろ寄りに水タンクも取り付けて全体を黒色に塗装後、車体にはめ込みます。

Dの脚受け、Eのダミーカブラーは編成の先頭になる車両のみに使用し、その場合台車のカブラーポケットは先端部よりカットしますが、排障器やスノーブローを取り付けておくとし引き締まった印象になります。

屋根板には裏側にガイド穴がありますが、本キットではいっさい使用しません。70-4の刻印のあるランナーのパンチレーター9箇所を、左図にある間隔で屋根中央に一直線になるよう取り付けます。部品A～C、Fおよびグロブパンチレーターは使用しません。

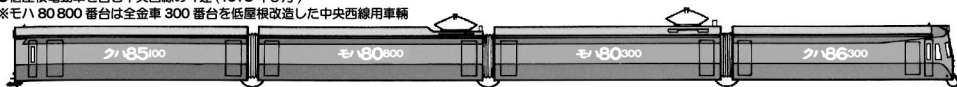
塗装ガイド

※丸囲み数字はGM鉄道カラーNo.



編成例

- 低屋根電動車を含む中央西線の4連(1978年9月)
- ※モハ80800番台は全金車300番台を低屋根改造した中央西線用車輦



「湘南電車」として名高い80系は幹線に於ける長編成での運用を前提に製作されたため、地方転出にあたっては当然のごとく先頭車が不足する事態となりました。一方で付随車のサハやサロは余剰気味となり、運転台を取り付ける改造によって先頭車を補う方法で生まれたのがクハ85です。種車による差異で多くのバリエーションが発生し、本キットのプロトタイプはシートピッチがやや拡大された1956～57年に製造されたグループから改造されたもので、3両が存在しました。クラシカルなシルハッター付車体ながら、窓サッシは製造当時から銀色のアルミサッシだったのが特徴です。クモユニ74や103系に準じた新設運転台はサロ85300(#170)などとも組み合わせられ、模型でも本キットとの切継ぎ改造で製作することが可能です。また、客室部分の切継ぎによりモハ80200やサハ87100などに生まれ変わらせる可能性も残されています。